

平成 12 年度委託試験で注目された病害虫防除薬剤

社団法人日本植物防疫協会試験事業部 **もり た やす みつ あら い ま すみ かど た けん ご**
森 田 恭 充・新 井 真 澄・門 田 健 吾

平成 12 年度の農薬委託試験は、10 月 24 日のリンゴ農薬連絡試験成績検討会を皮切りに、一般委託試験成績検討会ならびに総合判定会議、各連絡試験成績検討会が順次開催され、12 月 19～20 日の生物農薬連絡試験成績検討会まで、依頼された薬剤の各種病害虫に対する効果や葉害、使用方法の検討が行われた。

ここでは、平成 12 年度に依頼された試験の中で、注目された薬剤ならびにその傾向について紹介する。

I 平成 12 年度の委託薬剤の動向

〔殺菌剤〕

本年度依頼された委託試験薬剤は 246 剤（生物農薬・展着剤を除く）で、複数の作物、病害に対して延べ 2,013 件の試験が国公立試験研究機関等で実施された。薬剤数および総受託件数ともに昨年に比べ若干の増加が見られた。これら増加の要因は該当する新規成分が開発の最終段階を迎え、野菜や果樹などでは同じ成分で、剤型、含有量を変えた製剤がいくつか依頼されたこと、稲関係では新規殺菌成分と新規殺虫成分との混合剤が多く依頼されたためと思われる（図-1）。これらの中には最近登録された成分もいくつかある。初めて依頼された新規成分については、数年稲病害中心の大型剤の登場が続いたが本年はその傾向が弱まった。

試験件数では、野菜、連絡試験関係が昨年とほぼ同様であるのに対し、イネ・ムギ関係試験件数の約 30% の増加が目をひく。これはいもち病・紋枯病を対象とした新規化合物製剤が全国各地の多くの道府県で一斉に試験されたこと、単純混合剤の自社試験が増加したことが要因である。落葉果樹の分野では、平成 10 年度と比較すると薬剤数は 2 割減、試験数はおよそ半数という急激な減少である。逆にリンゴ農薬、芝草農薬はやや増加傾向にあった。また生物農薬については 40% 近い増加を示した。

本年度は分野別の試験件数にかなり変動があったにもかかわらず、試験実施にご協力いただいた関係機関の方々に本誌面を借りてお礼申し上げる。

〔殺虫剤〕

本年度依頼された薬剤数は 249 剤で（生物農薬・展着剤を除く）、それぞれ複数の作物・害虫に対して延べ 2,962 件が試験され、薬剤数は前年並みだったが、試験

件数は若干増加した。新規成分の単剤は 50 剤と前年同様少なかったが、混合剤はネオニコチノイド系化合物との混合を中心に 22 剤と前年より増加していた（図-2）。

試験分野別に見ると、イネ・ムギ関係では、大幅に落ち込んだ前年に比べると若干回復が見られた。しかし、新たに依頼された新規化合物は今年も 1 剤だけで、適用拡大と混合剤がほとんどだった。処理方法では、育苗箱処理が 31 剤と前年より増加し、イネを対象とする試験薬剤の大半を占めるようになってきた。

野菜関係はここ数年、適用拡大試験が多かったが、本年は新規化合物の試験も若干増加しており、今後の開発に期待したい。また、農林水産省の「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策」の動きを受け、豆類のカメムシやハスモンヨトウの試験が昨年に続き増加傾向であ

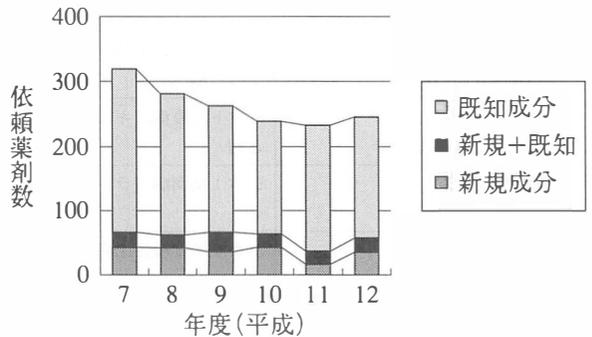


図-1 殺菌剤効果試験依頼薬剤数の推移

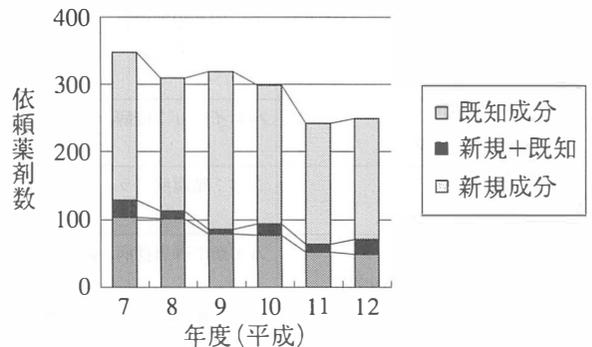


図-2 殺虫剤効果試験依頼薬剤数の推移

非公開、展着剤、薬臭・薬害試験、1 件も受託されなかった薬剤を除いた。新規化合物はそれぞれの分野（虫なら殺虫成分、菌なら殺菌成分）で平成 12 年 1 月末時点で登録のない成分。

った。

連絡試験では、茶で薬剤数、試験数ともに減少が認められたが、カンキツではハダニ対象の試験を中心に増加していた。生物農薬は試験件数が一気に多くなった昨年と比べ、一昨年までの件数に落ち着いていた。

試験内容としては、野菜のタネバエ・ダンゴムシや果樹のシャクトリムシ、茶のハスモンヨトウなど、圃場での自然発生が見込めず、実施しにくい試験が以前に増して多くなっていた。試験方法の検討など、担当者の方々にご苦労をおかけすることも多いが、現場ニーズに即した薬剤をできるだけ早く登録するためにも、今後ともご協力をお願いしたい。

II 注目される新規化合物を含む薬剤

1 成分未公開新規化合物

(殺菌剤)

平成12年度に試験された新規化合物を含む薬剤(生物農薬を除く)は57剤で、単剤は35剤、混合剤は22剤であった。これらのうち本年度初めて依頼のあった薬剤は18剤であった(表-1)。

BJL-001 SEは2種類の新規化合物からなる混合剤で、それぞれの成分の特徴を補完的に補うものである。殺菌成分のそれぞれが新規化合物で、それらを混合した剤の開発はこれまであまり例がないが、それぞれの成分

表-1 平成12年度に初めて依頼のあった新規化合物を含む薬剤(殺菌剤)

薬剤コード・成分	依頼作物・病害	備考
BJL-001 SE 9.3%+18.6%	ナシ・モモ・リンゴ・オウトウ：各種病害、 アルタナリア属菌による病害	BJL-993 と B JL-994 の混合剤
BJL-002 粒剤 7%	イネ：いもち病、紋枯病	
BJL-003 粒剤 3.3%	イネ：いもち病、紋枯病	
KUF-1201 DF 5%+50%	バレイショ、トマト：疫病、キュウリ、タマネギ： べと病	予防・治療効果が高く孢子形成も阻止。 新しい作用機作で耐雨性、残効性に優れる。 KUF-1001を含む。
KUF-1202 SE 5%+5%	トマト：疫病、キュウリ、ハクサイ、ブドウ：べ と病	
MBF-12 12%	シバ：葉腐病(ラージパッチ)	病原菌に必要な酵素系を変性または不活性させる。
MR-1 粉末 9g/kg以上	ハクサイ：根こぶ病	尿素ポリマーの根圏微生物相改良効果。
NF-154 顆粒水和剤 3.4%+15%	ナス、ピーマン、キュウリ、スイカ、イチゴ：う どんこ病	
NNIF-0051~0053 粒剤 12%+1%, 2%, 1.5%	イネ：いもち病、もみ枯細菌病、白菜枯病、褐条 病、苗立枯細菌病	病害抵抗性を誘導し、浸透移行性に優れる。 NNF-9850 との混合剤。
OK-0001 粒剤 3%+8%	イネ：いもち病	メラニン合成阻害剤と殺虫成分の混合剤。
SCF-001 水和剤 12.5%	バレイショ：疫病、キュウリ：べと病	根部からの吸収移行性も示す。
SF-0007 粒剤 0.2%	シバ：葉腐病(ラージパッチ、ブラウンパッチ)	スペクトルが広く予防、治療効果あり。
SF-0010 フロアブル 50%+2%	ムギ類：裸黒穂病、紅色雪腐病	
TFR-991 フロアブル 10%	ナシ：黒斑病、リンゴ：斑点落葉病	
TMF-001 DC, 水和剤 12.5%	トマト：疫病、キュウリ、ハクサイ：べと病	浸透性を有する新規系統剤。
TMZ-9911 液剤 99.5%	メロン：黒点根腐病	

は平成 11 年度から試験が実施されており、本年度いくつかの作物病害で実用性ありと判定された。

BJL-002 粒剤は箱粒剤、003 は本田散布剤であるが、それぞれ単一の有効成分を含む製剤としてもいち病と紋枯病に卓効を示した。特に 002 粒剤は両病害に長期間効果が続く箱処理剤であると思われることから、来年度の結果に期待したい。

〔殺虫剤〕

平成 12 年度に初めて依頼があった化合物は 8 種類（生物農薬を除く）（表-2）。また、未登録の新規化合物を含む薬剤は 72 剤（剤型別）で、内訳は単剤 50、混合剤 22 であり昨年に比較すると増加していた。以下、注目されるものをいくつか示す。

AVI-210 は平成 9 年に試験開始された RYI-210 乳剤・粉剤と同一成分で、半翅・鞘翅・アザミウマ目にやや遅効的な効果だが浸透性も有し、おおむね高い効果が認められている。TI-809 は経口摂取で鱗翅・アザミウマ目に活性を示し、良好な試験結果。YI-6101 は昨年実施されたコナガ・アオムシに加え、マメハモグリバエにも試験が行われ、遅効的ではあるものの高い効果が認められていた。

また、今年度新たに試験を開始した剤では、IKA-2000 がハダニ類、NNI-0001 が IGR 的な作用で鱗翅目におおむね高い効果、NC-510 はアブラムシ・アザミウマ類に速効的で高い効果が認められている。

さらに、天然抽出物でハダニ対象の NM-2000、新規 Bt 剤で大型鱗翅目対象の TG-0001、物理的殺虫剤の YE-621 も試験が実施されており、今後も様々な作用性を持った新規化合物が開発されることを期待したい。

2 土壌処理剤

ポストメチプロ対策で開発が注目される土壌処理剤の分野だが、本年は 2 剤が新たに試験を開始した。MKI-245 粒剤は接触型の殺線虫剤で、果菜・根菜類でおおむね良好な効果が認められていた。一方、TMZ-9911 液剤はガス抜き耕起が不要なくん蒸剤でメロンの黒点根腐病と線虫類に試験が実施されている。本年度はまだ実施中の試験が多く効果は不明だが、臭化メチルと同様の簡便な処理法のため、今後の開発が期待される。また、昨年からの試験が開始された接触型殺線虫剤 AKD-3088 粒剤も幅広い作物で良好な結果が得られていた。

III その他注目された事項

1 生物農薬

平成 6 年から開始された生物農薬連絡試験だが本年度は 46 剤が試験され、その内訳は殺虫剤 34 剤 114 件、殺菌剤 12 剤 83 件であった。昨年に比較して殺虫剤分野の件数が減少したのに対し、殺菌剤分野は大幅な件数増加が見られた。本年新たな依頼は殺虫剤 4 剤、殺菌剤では 7 剤であった（表-3）。

殺虫剤ではナメクジ対象寄生性線虫の SB-7281、ア

表-2 平成 12 年度に初めて依頼のあった新規化合物製剤（殺虫剤）

薬剤コード・成分	依頼作物・害虫	備 考
IKF-2000 フロアブル 新規化合物 30%	果樹類・茶：ハダニ類	ダニの全てのステージに有効で、特に成虫に速効性がある。浸透性・浸達性はない。チリカブリダニ・コレマンアブラバチ・カイコガに影響なし。
MKI-245 粒剤 新規化合物 2%	野菜類：線虫類	接触型の殺線虫剤。浸透性なし。
NC-510 フロアブル 新規化合物 20%	果菜類：半翅目・アザミウマ目	速効的な効果。
NM-2000 乳剤 既知天然物 1.4%	果樹類：ハダニ類	残効は短いが天敵影響少ない。
NNI-0001 顆粒水和剤 新規化合物 20%	キャベツ・リンゴ・茶：鱗翅目	IGR 的な作用。
TG-0001 Bt 15%	キャベツ・シソ：鱗翅目	菌糸等不明。
TMZ-9911 液剤 新規化合物 98%	メロン：線虫類	くん蒸剤。ガス抜き不要。
YE-621 液剤 新規化合物 60%	キュウリ・カンキツ：アブラムシ類・ミカンハダニ	物理的作用で殺虫。

生物農薬を除く。

表-3 平成12年度に新たに依頼のあった生物農薬

薬 剤 名	成 分	対象病害虫
(殺虫剤)		
CAS-007	<i>Harmonia axyridis</i> (ナミテントウ)	アブラムシ類
SB-7281	<i>Phasmarhabditis hermaphrodita</i> (寄生性線虫)	ナメクジ類
トモノハナカメムシ OL	<i>Orius laevigatus</i> (ハナカメムシの一種)	アザミウマ類
RSTM-1	<i>Frankliniopsis vespiformis</i> (アリガタシマアザミウマ)	アザミウマ類
(殺菌剤)		
CGC-2824 水和剤	細菌 1×10^{10} cfu/g	イネ：褐条病
CGC 7090 水和剤	細菌 1×10^{10} cfu/g	レタス：腐敗病
DF-481	<i>Trichoderma harzianum</i> 1×10^7 cfu/g	キュウリ：苗立枯病, ネギ：白絹病, ホウレンソウ：萎凋病
KUF-1203	糸状菌 1×10^{11} cfu/l	イネ：褐条病, もみ枯細菌病, 苗立枯細菌病, ばか苗病 (種子消毒)
MBF-122 水和剤	拮抗微生物 <i>Bacillus subtilis</i> 1×10^9 cfu/g	トマト：灰色かび病, キュウリ, イチゴ：うどんこ病
SB-910 水和剤	拮抗細菌 1×10^6 cfu/g	トマト, イチゴ, ブドウ：灰色かび病, イチゴ：うどんこ病
TMBIO-9941 顆粒水和剤	<i>Coniothyrium minitans</i> 1×10^9 cfu/g	レタス, キャベツ：菌核病
微生物炭堆肥	<i>Bacillus subtilis</i> 1×10^8 cfu/g (植物炭に固定)	ホウレンソウ：萎凋病

ザミウマ対象ハナカメムシのトモノハナカメムシ OL, アザミウマ対象捕食性アザミウマの RSTM-1 が全く新しい有効成分だった。また、花き類でチリカブリダニの試験が開始されるなど、新たな展開が見られた。しかし、輸送中のトラブル等により、製剤の活性低下が懸念された試験も散見され、試験実施にあたっては処理前の生存率など、剤の活性も重要な調査項目のように感じられた。

殺菌剤の新規製剤は、イネの種子消毒、野菜の灰色かび病、菌核病等、対象作物病害が多岐にわたった。その中でイネの種子消毒については、昨年実用性ありと判定された CAB-02 水和剤のように、拮抗細菌を主成分とする製剤がある一方、TMBIO-9831, KUF-1203 は糸状菌を有効成分とし注目される。ポトキラー水和剤は拮抗細菌の *Bacillus subtilis* を有効成分とする既登録剤であるが、同種の細菌を有効成分とした他社の製剤が本年度いくつか登場し、野菜類の灰色かび病、うどんこ病に試験された。TMBIO-9941 顆粒水和剤はレタス、キャベツの菌核病を対象とした製剤で、有効成分の糸状菌が土壌中の菌核に作用し、病原菌の生活環を断ち切るという生物農薬ならではのものである。また、DF-481 は過去に芝の葉腐病（ラージパッチ）に実用性ありと判定された製剤の見直しをはかったもので、野菜類の土壌病害

に対し試験された。

微生物農薬による防除の成否は、有効成分である微生物をいかに定着させるかにかかっている、と言っても過言ではない。後に述べる HT-9601・セル成型苗はセルトレイ内という限られた環境の中で定着を促した好例である。本年から試験が開始された微生物炭堆肥は多孔質の植物炭を微生物の住処として定着をはかっており、その着想は極めて理にかなっていると思われる。

これらの新規製剤は、初年度のため判定は来年以降となるが、本年度で見ると、その多くが比較的安定した防除効果を示し粒ぞろいである。殺菌分野の生物農薬もいよいよ成熟してきたようである。

なお、本年度新規登録された生物農薬はコガネムシ対象寄生性線虫のバイオトピアとアブラムシ対象昆虫病原性糸状菌のパータレック水和剤の2剤だった。

2 セル苗に処理する殺菌剤

セル苗に処理できる製剤としてはオンコルマイクロカプセル等、殺虫剤が先行しているが、殺菌剤についてもようやくいくつかの製剤が登場するようになった。HT-9601・セル成型育苗苗用培土は、生物農薬をセル苗用の育苗培土に含有した製剤で、土壌病害（青枯病）に対し、現在登録申請中である。また、本年度ランマンフロアブルがハクサイの根こぶ病に対して500倍液セル苗灌

注(2 l/トレイ)で実用性ありと判定された。本剤は多発生条件においては生育後期までは効果が持続しない場合があるが、土壤病害を対象とするには処理が簡単であることから極めて有用な資材であると考えられる。また同じくハクサイの根こぶ病防除を対象としたMR-1粉末も育苗培土に混和する製剤として本年度から試験されている。

3 箱粒剤による紋枯病防除

水稻の紋枯病防除は本田散布剤によるのが一般的であったが、平成10年に登録を取得したアゾキシストロピンを皮切りに箱粒剤による紋枯病防除剤が相次いで登録されてきており、いもち病と同様に紋枯病についても防除技術が変わりつつある。現在、箱粒剤として紋枯病を対象とした有効成分はアゾキシストロピン、チフルザミド、フラメトピルが既登録である。また、本年度も新規化合物製剤のBJL-002粒剤をはじめ、既登録成分が箱粒剤として試験中である。表-4は平成6年から平成12年度までに日植防委託で行われた箱粒剤による紋枯病防除試験で、調査に羽柴法を用いたものみの結果を示したものである。これによるといずれの薬剤も、安定した効果を示すと言われている本田散布剤(1回散布:試験では対照薬剤として用いられている)とほぼ同等の高い防除効果が得られていることが分かる。長期間効果の持続する箱処理剤の登場により、箱処理を中心とした水稻のいもち病とほとんどの病害に対する防除が可能となり、成分を混合することにより、箱処理剤で主要な病害のいもち病、紋枯病とほとんどの害虫を防除できることとなった。これを意図した製剤としてはウィンアドマイヤーグレート箱粒剤が平成12年に登録を取得している。これらの剤は今後新たな防除技術の発展、防除体系の確立に貢献するものと思われる。

4 稲カメムシの新たな防除方法

前項で紹介されたような長期残効性箱処理剤の登録により、突発的な病虫害対策を除き、移植後は斑点米カメムシ防除以外は不要な防除体系ができあがりつつある。このカメムシ防除の主力は既存の液剤もしくは粉剤であるが、使用にあたっては地域一斉防除の難しさや住宅地での粉剤使用自粛、地域によっては残効の短さによる多数回散布の必要性など、考慮しなければならない問題も残されている。このような中、新たな防除法として、粒

表-4 日植防委託試験で実施された箱粒剤による紋枯病の防除効果一覧表(平成6~12年度)

処理法	薬剤名	試験例数	防除価*		
			発病株率	病斑高率	被害度
育苗箱施用 50 g/箱	A	3	66.6	27.4	72.4
	B	4	37.5	31.4	67.6
	C	4	52.1	25.3	66.2
	D	12	59.6	29.8	88.4
	E	5	49.1	19.1	68.4
	F	7	77.9	39.6	87.5
	G	4	64.9	23.8	78.8
	H	12	62.9	20.9	69.1
	I	10	75.6	20.4	79.8
	J	11	74.8	23.5	82.4
	K	4	86.5	24.7	84.4
	L	10	65.9	31.0	76.4
	M	2	49.3	2.6	55.9
	N	7	71.4	31.3	83.3
平均			63.9	25.1	75.5
本田散布 4 kg/10 a	O粒剤	37	53.5	25.4	71.8

*調査法に羽柴法を用いた試験のみを集計し、防除価で表した。

剤散布によるカメムシ防除が検討され始めた。効果的な処理時期や処理量など検討が必要な事項はあるものの、今年度から試験開始されたベストガード粒剤では良好な結果も得られており、実用化すれば、箱処理と出穂期の粒剤散布の2回だけという極めて省力的な防除体系も可能になる。今後の動向に注目したい。

IV 最近名称に変更のあった薬剤

多くの薬剤は、初めて委託に出される時にはコード番号などを薬剤名として使用しているが、登録に伴って商品名が命名される。また、商品名がつけられる前に何らかの事情で名称が変更されることもある。これらは以前の試験と比較するときとまどうこともある。そこで、最近名称に変更のあった薬剤の一覧表を表-5に掲げた。参考になれば幸いである。

表-5 最近名称に変更のあった主な薬剤

旧薬剤名	変更後名称	成分名・量
(殺菌剤)		
9811 顆粒水和剤	ジャストミート顆粒水和剤	フェンヘキサミド 50%, フルジオキソニル 20%
AL-9801 フロアブル	イカルガ 35 SC	チフルザミド 35%
BD 9701 水和剤	ダイヤモンド	イミノクタジンアルベシル酸塩 20%, フェンヘキサミド 30%
NNF-9425 粒剤 9	アチーブ粒剤 9	フェノキサニル 9%
NOJ-118 粒剤	デジタルコラトップ	ピロキロン 12%
(殺虫剤)		
1241 フロアブル	タフバリアフロアブル	イミダクロプリド 20%
カスラブジョーカーフロアブル	カスラブジョーカーゾル	カスガマイシン 1.2%, フサライド 15%, シラフルオフェン 9.5%
粘着くん粒状水和剤	粘着くん 80	デンブン 80%
改良型コナガコン	コナガコンプラス	Z11-ヘキサデセナール 51.5%, Z9-ヘキサデセナールアセテート 41.2%, Z9-ヘキサデセナール 2.1%
(殺虫・殺菌剤)		
NNIF-9940 液剤	アタックワン AL	ミクロプタニル 0.008%, ビフェントリン 0.003%

表-6 平成 12 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (殺菌剤: イネ・ムギ)

作物名	病害名	薬剤名
イネ	いもち病	1271 粒剤 ^{*2} , ADA-2011 箱粒剤 ^{*3} , AMH-213 粒剤 ^{*3} , F-073 粉剤, HM-2001 粉剤 DL, HM-2002 粉剤 DL, HOF-2003 粒剤, KUM-991 粉剤 DL, KUM-992 粉剤 DL, MM-224 粒剤 ^{*3} , MS-9901 粒剤, NC-511 粒剤 ^{*3} , NOJ-116 粒剤 ^{*3} , NOJ-118 粒剤 ^{*3} , NOJ-121 粒剤 ^{*3} , ST-981 粉剤 DL, TIF-101 箱粒剤 ^{*3} , カスラブジョーカーゾル, デラウスプリンス粒剤 06 ^{*1,*2} , デラウスプリンス粒剤 10 ^{*1} , デラウスフロアブル, デラウス粒剤 ^{*1}
	紋枯病	ADA-2011 箱粒剤 ^{*3} , HOF-2003 粒剤, NNF-0023 粉剤 DL, NNIF-0033 粉剤 DL, NNIF-9932 粉剤 DL, オリブライト 1 キロ粒剤, グレータムフロアブル
	穂枯れ (すじ葉枯病菌)	アミスターエイト, オリブライト 1 キロ粒剤
	穂枯れ (ごま葉枯病菌)	ST-981 粉剤 DL, ST-982 フロアブル, オリブライト 1 キロ粒剤
	変色米 (エピコッカム菌)	DF-283 フロアブル, アミスターエイト, ベルクートフロアブル
	もみ枯細菌病	ジャッジ箱粒剤 ^{*3} , ブラシンバリダフロアブル, ブラシンフロアブル
	いもち病 (種子消毒)	DF-581 フロアブル
コムギ	赤かび病	ベルクートフロアブル
	紅色雪腐病	アミスター 20 フロアブル

*¹床土, 覆土混和, *²播種時, *³移植時.

平成 12 年度は 76 薬剤 422 試験が実施された。殺虫剤との混合剤が多いのは例年の通りであるが、本年度新規登録された殺菌成分(ジクロシメット等)との混合剤が目立った。育苗箱施用では床土または覆土に混和で、実用性ありと判定されたものもある。NOJ-118, 121 はピロキロンを有効成分とし、長期間効果を持続させるため有効成分が徐々に放出されるよう工夫された箱粒剤である。NOJ-118 はデジタルコラトップという商品名で 12 年度に登録され、本年は移植 3 日前が実用性ありとなった。NOJ-121 は殺虫剤との混合剤である。受託されたムギ類の試験は 24 件であり、依頼数・受託数ともに年々減少している。

表-7 平成 12 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤。抜粋（殺菌剤：野菜花き）

作物名	病害名	薬剤名
パレイショ	軟腐病 疫病 黒あし病 黒あざ病 そうか病	ドイツボルドー DF KUF-1001 DF, SB-3561 SC アグレプト水和剤 モンセレン顆粒水和剤 アグレプト水和剤, ソイリーン, バクテサイド水和剤
カンショ	立枯病	NKD-001
ダイズ	葉焼病 べと病 紫斑病	バリダシン液剤 5 カーゼート PZ 水和剤, グリーンダイセン M 水和剤 SC-9703 粉剤, ゲッター水和剤, 撒粉ボルドー粉剤 DL, スミトップパウエル粉剤 DL (仮称)
アズキ	褐斑細菌病	カスミンボルドー水和剤
インゲン	灰色かび病 菌核病 炭疽病	BJL-994 ドライフロアブル, KUNF-2000 顆粒水和剤, ロブラールフロアブル KUNF-2000 顆粒水和剤, ロブラールフロアブル ベルクートフロアブル
エンドウ	根腐病	クロピクテープ, ソイリーン
テンサイ	褐斑病 黒根病	ジマンダイセン DF フロンサイド水和剤
ナス	灰色かび病 苗立枯病 (リゾクトニア菌) すすかび病	BJL-994 ドライフロアブル, MTF-753 フロアブル クロピクテープ, クロロピクリンテープ, サイロン液剤 サンヨール
トマト	疫病 葉かび病 萎凋病 苗立枯病 (ピシウム菌) うどんこ病	KUF-1001 DF HM-2004 AL, カリグリーン水溶剤 NKD-001, クロロピクリン錠剤 クロピクテープ カリグリーン水溶剤
ピーマン	斑点病 苗立枯病 (リゾクトニア菌) うどんこ病	ダコニール 1000 クロピクテープ, クロロピクリンテープ NF-149 顆粒水和剤
キュウリ	べと病 灰色かび病 褐斑病 菌核病 苗立枯病 (ピシウム菌) うどんこ病	BJL-993 ドライフロアブル, TMF-9831 顆粒水和剤 9811 顆粒水和剤, BD 9701 水和剤, B JL-994 ドライフロアブル ヨネボン水和剤 9811 顆粒水和剤, BD 9701 水和剤, セイビアーフロアブル 20 MTF-961 (クロピクテープ) BJL-993 ドライフロアブル, HM-2004 AL, MTF-753 フロアブル, サンヨール液剤 AL, ベルクロープ水和剤, モスピラン・トップジン M スプレー II
メロン	えそ斑点病 黒点根腐病	サイロン液剤, ソイリーン NKD-001, キルパー液剤
スイカ	果実汚斑細菌病 褐色腐敗病 菌核病 苗立枯病 (ピシウム菌) 苗立枯病 (リゾクトニア菌) つる枯病 つる割病 うどんこ病	キノンドーフロアブル RYF-315 水和剤, カーゼート PZ 水和剤, フェスティバル C 水和剤, ホライズンド ライフロアブル ジマンレックス水和剤 クロロピクリンテープ クロロピクリンテープ オーサイド水和剤 80, ダコニール顆粒水和剤 キルパー液剤, サンメボン フルピカフロアブル
カボチャ	べと病 うどんこ病	ストロビーフロアブル BJL-993 ドライフロアブル

作物名	病害名	薬剤名
ダイコン	ワッカ症 パーティシリウム黒点病	カスミンボルドー水和剤 ソイリーン
ハクサイ	べと病 苗立枯病 (ピシウム菌) 苗立枯病 (リゾクトニア菌) 根こぶ病 根くびれ病 黄化病	BJL-993 ドライフロアブル, KUF-1001 DF クロルピクリンテープ クロルピクリンテープ ランマンフロアブル キルパー液剤 ソイリーン
キャベツ	軟腐病 菌核病 苗立枯病 (リゾクトニア菌) 根こぶ病	パイオン水和剤 5, パリダシン液剤 5 セイビアーフロアブル 20, トップジン M ソル クロピクテープ NNF-0025 粉剤
イチゴ	灰色かび病 萎黄病 うどんこ病	BD 9701 水和剤, HM-9901 AL NKD-001 サンヨール
ネギ	軟腐病 べと病 黒斑病 白絹病	コサイド DF 顆粒水和剤, ドイツボルドー A 水和剤 サーガ水和剤, フェスティバル C 水和剤 ヨネボン水和剤 サンメボン, ソイリーン
タマネギ	べと病 灰色腐敗病 苗立枯病 白色疫病 ポトリチスによる葉枯れ (灰色かび病)	KUF-1001 DF アミスター 20 フロアブル, セイビアーフロアブル 20, ベンレート水和剤 キルパー液剤 フェスティバル M 水和剤 BJL-994 ドライフロアブル, シルバキュアフロアブル
ニラ	さび病	ストロビーフロアブル, ラリー乳剤
ニンニク	春腐病 葉枯病	カセット水和剤 ベンコゼブ水和剤
ラッキョウ	灰色かび病	ベルコートフロアブル
アスパラガス	茎枯病	コサイド DF 顆粒水和剤
レタス	ビッグベイン病 腐敗病 斑点細菌病 軟腐病 菌核病 すそ枯病	MTF-961 (クロピクテープ) アグレプト液剤 カセット水和剤 キンセット水和剤 80, パリダシン液剤 5 ゲッター水和剤, トップジン M ソル NNF-0025 粉剤
ゴボウ	黒あざ病	キルパー液剤, ソイリーン
ニンジン	黒葉枯病 しみ腐病	アミスター 20 フロアブル, ダコニールエース キルパー液剤
ミツバ	立枯病	モンカット水和剤
ハウレンソウ	立枯病	クロルピクリン錠剤
ショウガ	根茎腐敗病 紋枯病	NKD-001 シトラノフロアブル
ミョウガ	根茎腐敗病	キルパー液剤
キク	半身萎凋病 萎凋病 黒斑病 黒斑病・褐斑病 白さび病	ソイリーン キルパー液剤 サンヨール ストロビーフロアブル ジマンダイセンフロアブル, ストロビーフロアブル

作物名	病害名	薬剤名
バラ	うどんこ病	AGM-001 スプレー, NF-149 顆粒水和剤, サンヨール液剤 AL, トップジン M スプレー
カーネーション	萎凋細菌病	クロルピクリンテープ, ソイリーン
ユリ	葉枯病	フルピカフロアブル
チューリップ	球根腐敗病 根腐病	ヘルシード T 水和剤 クロピクテープ
トルコギキョウ	灰色かび病	サンヨール
ガーベラ	灰色かび病	サンヨール
パンジー	灰色かび病	サンヨール
スイートピー	うどんこ病	トリフミン水和剤
ペチュニア	うどんこ病	サンヨール
プリムラ	灰色かび病	トップジン M ソル
シンビジウム	炭疽病	トップジン M ソル

平成 12 年度は 120 薬剤 908 試験が実施され、ほぼ昨年と同数であった。登録薬剤のないアズキの褐斑細菌病について初めての実用性ありの判定がされ登録が待たれるところである。ダイズの紫斑病については、4 剤が実用性ありとなった。チオファネートメチルの耐性菌が問題となっており早期登録が望まれる。メチプロ代替剤は一段落した感があるが、クロルピクリン錠剤が散布混和という新しい処理法で、また、NKD-001 はクロルピクリンと 1,3-ジクロロプロペンとの新混合製剤でいくつかの作物に実用性ありと判定された。

表-8 平成 12 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋（殺菌剤：連絡試験，除生物農薬）

作物名	病害名	薬剤名
ナシ	疫病 黒斑病 黒星病 輪紋病	デランフロアブル BJL-993 ドライフロアブル, パスポートフロアブル キンセツ水和剤 80 キンセツ水和剤 80
モモ	うどんこ病	NF-149 顆粒水和剤
スモモ	灰星病	オーシャイン水和剤
アンズ	灰星病	トリフミン水和剤
ウメ	かいよう病 黒星病 うどんこ病	カスミン液剤 オーシャイン水和剤 ストロビードライフロアブル
ブドウ	べと病 灰色かび病 晩腐病 さび病 白紋羽病 うどんこ病	BJL-993 ドライフロアブル, KUF-1001 DF, TMF-9831 顆粒水和剤 BJL-994 ドライフロアブル TMF-9831 顆粒水和剤 ストロビードライフロアブル BJL-861 微粒剤, キルパー液剤 BJL-993 ドライフロアブル, フルピカフロアブル
カキ	落葉病 炭疽病 うどんこ病	サンリット P 水和剤 アミスター 10 フロアブル, サンリット P 水和剤 サンリット P 水和剤
リンゴ	赤星病 斑点落葉病 褐斑病 黒点病 黒星病 モニリア病（予防効果）	NNF-0021 水和剤, サンリット P 水和剤 BJL-993 ドライフロアブル, NNF-0021 水和剤, ジマンダイセン DF キンセツ水和剤 80, スパットサイド水和剤, フジオキシラン水和剤, ブラウ水和剤, ユニックス Z 水和剤, ヨネボン水和剤 NNF-0021 水和剤, サンリット P 水和剤, フリントフロアブル 25 NNF-0021 水和剤, サンリット P 水和剤, ジマンダイセン DF オーシャイン水和剤, デランフロアブル

作物名	病害名	薬剤名
リンゴ	モニリア病 (治療効果) 輪紋病 すす点・すす斑病 炭疽病 うどんこ病	オーシャイン水和剤, サンリット水和剤 フリントフロアブル 25 フリントフロアブル 25, ヨネボン水和剤 アントラコール顆粒水和剤, キノンドーフロアブル, シトラーフロアブル, プラウ水和剤, フリントフロアブル 25 サンリット P 水和剤
オウトウ	灰星病 せん孔病	オーシャイン水和剤, ロブラール 500 アクア パルノックスフロアブル
カンキツ	灰色かび病 貯蔵病害 (緑青かび病, 軸腐病)	BJL-994 ドライフロアブル NF-151 顆粒水和剤
茶	網もち病 もち病 輪斑病 炭疽病	ストロビーフロアブル サンリット水和剤 カスミンボルドー DF オーシャイン水和剤, ドイツボルドー DF
シバ	ガラススポット病 フェアリーリング病 疑似葉腐病 (春はげ症) 疑似葉腐病 (象の足跡) 葉枯病 葉腐病 (ブラウンパッチ) 葉腐病 (ラージパッチ) 赤焼病 ピシウム病 炭疽病 立枯病 (テイクオールパッチ)	NNF-9941 水和剤, クリアパッチ DF, タフシーバフロアブル, パッチコロコン水和剤, プラウザー M 水和剤, マネージ乳剤 グラボストフロアブル ターフトップ DF トップグラスドライフロアブル YS-001 顆粒水和剤, タフシーバフロアブル, ヘリテージ顆粒水和剤 DKF-201 水和剤, NNF-9941 水和剤, コンバード M 水和剤, タフシーバフロアブル, パッチコロコン水和剤, バリダシン液剤 5, プラウザー M 水和剤 セレントーフ顆粒水和剤, バリダシン液剤 5 ポリオキシシン Z ドライフロアブル コンバード M 水和剤, プラウザー M 水和剤, ヘリテージ顆粒水和剤 コンバード M 水和剤, プラウザー M 水和剤, ヘリテージ顆粒水和剤 DF-284 水和剤, NNF-9941 水和剤 ヘリテージ顆粒水和剤

落葉果樹を対象に 39 薬剤 165 試験が実施された。既存剤の対象作物、病害の拡大が中心であるが、いくつかの新規化合物薬剤の試験も見受けられる。これらの判定は来年以降となる。リンゴ・オウトウを対象としては 28 薬剤 211 試験が実施された。褐斑病に 6 薬剤、炭疽病に 5 薬剤が実用性ありとされた。なお、炭疽病については平成 12 年度まで地域限定病害としての取り扱いがされていたが、発生地域の拡大により来年度より 2 年 6 例以上の試験が要求されることとなった。カンキツを対象に 11 薬剤 36 試験、チャを対象に 10 薬剤 55 試験が実施された。シバに対しては 31 薬剤 216 試験が実施された。それらのほとんどが高く安定した効果を示しており、11 病害に延べ 31 薬剤が実用性ありと判定された。

表-9 平成 12 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤
(殺菌剤・生物農薬)

作物名	病害名	薬剤名
イネ	苗立枯細菌病 (種子消毒)	TMBIO-9831 水和剤
トマト	根腐萎凋病	HT-9601・セル成型育苗培土
ネギ	軟腐病	バイオキーパー水和剤
レタス	軟腐病	バイオキーパー水和剤

本年度は 12 薬剤 83 試験が実施された。対象作物、病害が多くなり、また新規の薬剤も多数試験されるようになってきている。本年初めて実用性ありの判定を受けた薬剤はイネ種子消毒剤の TMBIO-9831 である。HT-9601 (商品名:セル苗元気)のトマト根腐萎凋病は昨年実用性ありと判定されたトマト青枯病につづくものであり、現在トマト青枯病で登録申請中である。

表-10 平成12年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋（殺虫剤・稲麦）

作物名	害虫名	薬剤名
イネ	ウンカ類	AMH-213 粒剤**MM-224 粒剤** ⁴ , MS-9901 粒剤, MTI-540 粉剤 DL, NNIF-0051 粒剤* ² , NOJ-114 粒剤** ⁴ , TIF-101 箱粒剤** ⁴ , TIF-9801 箱粒剤 15* ⁴ , グントツ水溶剤, グントツ箱粒剤* ⁴ , デラウスプリンス粒剤 10* ¹ , マトリックジョーカー粉剤 DL
	ツマグロヨコバイ	MM-224 粒剤** ⁴ , MS-9901 粒剤, TIF-9801 箱粒剤 15* ⁴ , マトリックジョーカー粉剤 DL, ウインアドマイヤー顆粒水和剤* ⁵ , グントツ箱粒剤** ⁴
	カメムシ類	MTI-540 粉剤 DL, NNIF-0032 粉剤 DL, マトリックジョーカー粉剤 DL
	イナゴ類	Dr. オリゼプリンス粒剤 6* ³ , MTI-540 粉剤 DL
	イネアザミウマ	Dr. オリゼプリンス粒剤 10* ⁴
	ニカメイチュウ	AMH-213 粒剤** ⁴ , Dr. オリゼプリンス粒剤 10* ³ , Dr. オリゼプリンス粒剤 6* ³ , MTI-540 粉剤 DL, スタークル粉剤 DL, デラウスプリンス粒剤 10* ¹ , ランナーフロアブル
	コブノメイガ	AMH-213 粒剤** ⁴ , Dr. オリゼプリンス粒剤 10* ³ , NNIF-0051 粒剤* ⁴ , デラウスプリンス粒剤 10* ² , マトリックジョーカー粉剤 DL
	イネドロオイムシ	Dr. オリゼプリンス粒剤 10* ³ , Dr. オリゼプリンス粒剤 6* ³ , MM-224 粒剤* ⁴ , アドマイヤー顆粒水和剤* ⁵ , グントツ箱粒剤** ⁴ , デラウスプリンス粒剤 06* ² , デラウスプリンス粒剤 10* ¹
	イネミズゾウムシ	AMH-213 粒剤** ⁴ , MM-224 粒剤** ⁴ , デラウスプリンス粒剤 06* ² , デラウスプリンス粒剤 10* ¹

*¹床土混和, **²播種時, **³緑化期, **⁴移植時, **⁵移植時灌注.

平成12年度は稲・麦用に65剤、のべ417件の試験が受託され、昨年に比べ増加していた。しかし、本年度も単剤で初めて「実用性あり」の判定を受けた化合物はなく、混合剤が開発の主流だった。また、育苗箱処理は例年並みの9害虫に対し17剤、延べ37対象に実用性判定が出され、安定した開発ベースを保っている。

表-11 平成12年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋（殺虫剤・野菜花き関係）

作物名	害虫名	薬剤名
バライシヨ	アブラムシ類	TMI-951 顆粒水溶剤
	テントウムシダマシ類	TMI-951 顆粒水溶剤
	センチュウ類	AKD-3088 粒剤, ラグビー MC 粒剤
カンシヨ	コガネムシ類	ラグビー MC 粒剤
	センチュウ類	アオバ液剤, クロピクテープ, ネマトリンエース粒剤, プラズマ油剤
サトイモ	センチュウ類	ソイリーン, バイデート L 粒剤
ヤマノイモ	センチュウ類	ソイリーン
ダイズ	ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル
テンサイ	ヨトウムシ	TMI-951 顆粒水溶剤
	テンサイトビハムシ	TMI-951 顆粒水溶剤
コンニャク	センチュウ類	ネマトリンエース粒剤
ナス	アブラムシ類	サンスプレー UFO ライトマシン, トレボン MC
	コナジラミ類	SB-7241 乳剤, アクタラ粒剤 5, アクタラ顆粒水溶剤
	アザミウマ類	アクタラ粒剤 5, サンスプレー UFO ライトマシン, スタークル顆粒水溶剤, スピノエース顆粒水和剤
	ハスモンヨトウ	S-1812 EW, トルネードフロアブル, ファルコンフロアブル
	オオタバコガ	S-1812 EW, SB-7241 乳剤, SSI-131 顆粒水和剤, ジェイエース水溶剤, スピノエース顆粒水和剤, マトリックフロアブル
	マメハモグリバエ	SB-7241 乳剤, アクタラ顆粒水溶剤, ハチハチ乳剤
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル
	センチュウ類	プラズマ油剤

作物名	害虫名	薬剤名
トマト	アブラムシ類	IKI-220 顆粒水和剤, サンヨール
	コナジラミ類	IKI-220 顆粒水和剤, SB-7241 乳剤, サンスプレー UFO ライトマシン, サンヨール
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤
	ハスモンヨトウ	ファルコンフロアブル
	オオタバコガ	S-1812 EW, SB-7241 乳剤, SSI-131 顆粒水和剤
	マメハモグリバエ	スピノエース顆粒水和剤
	トマトサビダニ	ハチハチ乳剤
ピーマン	アブラムシ類	サンヨール
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤
	ハスモンヨトウ	ファルコンフロアブル
	センチュウ類	ネマトリンエース粒剤
きゅうり	アブラムシ類	IKI-220 顆粒水和剤, サンヨール液剤 AL, トレボン MC
	コナジラミ類	IKI-220 顆粒水和剤
	アザミウマ類	アクトラ顆粒水溶剤, スタークル粒剤, スピノエース顆粒水和剤, ハチハチ乳剤
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル
	センチュウ類	ルートガード油剤
メロン	アブラムシ類	IKI-220 顆粒水和剤, サンヨール
	ウリノメイガ	ゼンターリ顆粒水和剤
	ハダニ類	アニバース MC
	センチュウ類	アオバ液剤, クロピクテープ, バイデート L 粒剤
すいか	アブラムシ類	サンヨール, スタークル顆粒水溶剤
	ウリノメイガ	デルフィン顆粒水和剤
	ハダニ類	アニバース MC
	センチュウ類	クロピクテープ, プラズマ油剤
だいこん	コナガ	SSI-131 顆粒水和剤
	アオムシ	SB-7241 乳剤, SSI-131 顆粒水和剤, クオークフロアブル
	ネキリムシ類	オンダイアエース粒剤
かぶ	アブラムシ類	オルトラン粒剤
はくさい	アブラムシ類	ジェイエース粒剤
	コナガ	DAI-9101 10% 顆粒水和剤, KM 202 フロアブル, SB-7241 乳剤, SSI-131 顆粒水和剤, チューンアップ顆粒水和剤, レピタームフロアブル
	アオムシ	SB-7241 乳剤, SI-9603 SC, SSI-131 顆粒水和剤, チューンアップ顆粒水和剤
	ヨトウムシ	SB-7241 乳剤, スピノエース顆粒水和剤, ファルコンフロアブル
キャベツ	コナガ	KM 202 フロアブル, S-1812 EW, SB-7241 乳剤, トアローフロアブル CT
	ハイマダラノメイガ	マッチ乳剤
	アオムシ	KM 202 フロアブル, SB-7241 乳剤, SSI-131 顆粒水和剤, アクトラ粒剤 5
	ヨトウムシ	S-1812 EW, SB-7241 乳剤, マジオス顆粒水和剤
ブロッコリー	コナガ	SSI-131 顆粒水和剤
	アオムシ	SSI-131 顆粒水和剤, オンコル粒剤 5
	ヨトウムシ	ジェイエース粒剤
チンゲンサイ	コナガ	チューンアップ顆粒水和剤, バイオッシュフロアブル, レピタームフロアブル

作物名	害虫名	薬剤名
チンゲンサイ	アオムシ	チューンアップ顆粒水和剤, バイオッシュフロアブル
こまつな	コナガ	バイオッシュフロアブル
なばな	コナガ	バイオッシュフロアブル
いちご	アブラムシ類	IKI-220 顆粒水和剤, アクタラ粒剤 5
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤
	ハスモンヨトウ	S-1812 EW, ファルコンフロアブル, マッチ乳剤
	ハダニ類	YI-6011 くん煙剤
	センチュウ類	クロピクテープ, ネマトリンエース粒剤, プラズマ油剤
ねぎ	ネギアザミウマ	スピノエース顆粒水和剤
	シロイチモジヨトウ	S-1538 ドライフロアブル, S-1812 EW, レピタームフロアブル
	タネバエ	ダイアジノン粒剤 10
たまねぎ	ネギアザミウマ	TMI-951 顆粒水溶剤, ジェイエース水溶剤
	タマネギバエ	ダイアジノン粒剤 10
にんにく	センチュウ類	ネマトリン粒剤
レタス	ネキリムシ類	オンダイアエース粒剤
	ヨトウムシ	ジェイエース水溶剤
	ハスモンヨトウ	ファルコンフロアブル, レピタームフロアブル
	オオタバコガ	SSI-131 顆粒水和剤, マトリックフロアブル
	ナモグリバエ	アクタラ粒剤 5
ごぼう	センチュウ類	ソイリーン
ほうれんそう	ハスモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤
	タネバエ	カルホス粉剤
しょうが	センチュウ類	ソイリーン, ネマトリンエース粒剤
花き類	カタツムリ類	XMC ベイト
きく	アブラムシ類	サンヨール, チェス水和剤
	アザミウマ類	アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤
	オオタバコガ	SSI-131 顆粒水和剤
	マメハモグリバエ	スピノエース顆粒水和剤
	ハダニ類	F-0511 スプレー, アニバース MC, マイトコーネフロアブル
ばら	アブラムシ類	NNI-9811 泡スプレー, サンヨール, ブルースカイスティック
	アザミウマ類	ダントツ水溶剤
	ハダニ類	粘着くん液剤
カーネーション	アブラムシ類	モスピランジェット
	ハダニ類	粘着くん液剤
つつじ・さつき	ツツジグンバイ	トレボン MC
りんどう	アザミウマ類	ジェイエース水溶剤
ガーベラ	コナジラミ類	スタークル顆粒水溶剤
パンジー	アブラムシ類	F-0511 スプレー
ペチュニア	アブラムシ類	F-0511 スプレー, F-9512 錠剤
つばき・さざんか	チャドクガ	YIF-5910 液剤 AL, アタックワン AL

作物名	害虫名	薬剤名
さるすべり	サルスベリフクロカイガラ	GL-25 (乳剤)
ニレ	アブラムシ類	オルトランカプセル

平成 12 年度の依頼は 149 剤、のべ 1,774 件の試験が受託された。試験件数などは前年並みであったが、本年初めて「実用性あり」の判定を受けた化合物はマジオス顆粒水和剤、AKD-3088 粒剤、F-0511 スプレー、S-1812 EW、SB-7241 の 5 剤と、前年よりも増加していた。

登録農薬がないか少ない品目のテンサイ：ハダニ類、キュウリ・メロン・スイカ：ウリノメイガ、キャベツ：ダンゴムシ類、コマツナ・ナバナ：コナガ、ノザワナ：アオムシ、ベチュニア・プリムラ・カモミール・ニレ：アブラムシ類、リンドウ：アザミウマ類、ガーベラ：コナジラミ類に実用性ありの判定が出された。

また本年度新規登録となったマイトコーネフロアブルはナス・キュウリ・キク：ハダニ、ラグビー MC 粒剤はカンショ：コガネムシ類とバレイショ：ジャガイモシストセンチュウ、チューンアップ顆粒水和剤はチンゲンサイ・ハクサイ：アオムシ・コナガで実用性ありと判定された。

表-12 平成 12 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋 (殺虫剤・連絡試験・除生物農薬)

作物名	害虫名	薬剤名
ナシ	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤
	コナカイガラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、バリアード顆粒水和剤
	ケムシ類	マリトックフロアブル
	シンクイムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、マジオス顆粒水和剤
	ニセナシサビダニ	カネマイトフロアブル
モモ	アブラムシ類	IKI-220 顆粒水和剤
	シンクイムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤、マジオス顆粒水和剤
	ハダニ類	タイタロンフロアブル、粘着くん液剤
ウメ	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤
ブドウ	コナカイガラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤
	フタテンヒメヨコバイ	ダントツ水溶剤
	チャノキイロアザミウマ	IKI-220 顆粒水和剤、アクタラ顆粒水溶剤、ジェイエース水溶剤
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル
カキ	カメムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤
	チャノキイロアザミウマ	ダントツ水溶剤
	カキクダアザミウマ	アクタラ顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤
	カキノヘタムシガ	ダントツ水溶剤
イチジク	ネコブセンチュウ	ネマトリンエース粒剤
リンゴ	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、粘着くん液剤
	ケムシ類	ファイブスター顆粒水和剤、ファルコンフロアブル
	ハマキムシ類	アニバース MC、マジオス顆粒水和剤
	シンクイムシ類	アクタラ顆粒水溶剤
	ギンモンハモグリガ	アクタラ顆粒水溶剤、アニバース MC
	キンモンホソガ	アクタラ顆粒水溶剤、アニバース MC
オウトウ	ハマキムシ類	マトリックフロアブル
かんきつ	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤
	チャノキイロアザミウマ	IKI-220 顆粒水和剤、スタークル顆粒水溶剤、ハチハチフロアブル
	ミカンハモグリガ	スタークル顆粒水溶剤、マッチ乳剤
	アゲハ類	ダントツ水溶剤

作物名	害虫名	薬剤名
かんきつ	コアオハナムグリ	ラービフロアブル
	ケシキスイ類	ジェイエース水溶剤, ダントツ水溶剤, ラービフロアブル
	ミカンハダニ	KI-71 液剤
	チャノホコリダニ	バイデン水和剤
	ミカンサビダニ	マイトコーネフロアブル, マッチ乳剤
ピワ	アブラムシ類	モスピランジェット
茶	チャノキイロアザミウマ	スピノエースフロアブル
	チャハマキ	SSI-131 顆粒水和剤
	チャノホソガ	スピノエースフロアブル
シバ	シバツトガ	TI-9901 顆粒水和剤, YS-981 マイクロカプセル剤
	スジキリヨトウ	害虫用砂粒剤 ST 001
	コガネムシ類 (幼虫)	TI-9901 顆粒水和剤
	シバオサゾウムシ	YS-981 マイクロカプセル剤

平成 12 年度の落葉果樹農薬連絡試験では 39 薬剤が依頼され、のべ 248 件の試験が受託された。リンゴ農薬連絡試験では 34 剤が依頼、のべ 144 件が受託、カンキツ農薬連絡試験では 38 薬剤が依頼、のべ 217 件が受託、茶農薬連絡試験では 24 薬剤が依頼、のべ 100 件が受託、芝草農薬連絡試験では 9 剤が依頼、のべ 55 件が受託された。茶、芝草分野で薬剤数、試験件数とも、ここ数年減少がみられる一方、カンキツ分野では新規殺ダニ剤の試験が多く、前年より 50 件ほど増加していた。

これら連絡試験では、新規化合物の KI-71 液剤がかんきつ：ミカンハダニで初めての「実用性あり」判定を受けていた。また、これまで登録農薬がないか少ない品目ではイチジク：ネコブセンチュウ、かんきつ：アゲハ類・シャクトリムシ類、ピワ：アブラムシ類（くん煙剤）、シバ：チガヤシロオカイガラムシで実用性ありの判定が出された。

その他、突発的な発生から網掛け試験中心に実施されている果樹カメムシで、集合フェロモンを用いた圃場試験法の試みが行われ、十分検討可能な結果が得られていた。反復の取り方や地理的条件等注意すべき点は多々あるものの、圃場で検討できる新試験法として注目したい。

表-13 平成 12 年度総合判定で実用ありと判断された薬剤・抜粋（殺虫剤・生物農薬連絡試験）

作物名	害虫名	薬剤名
ナス	アブラムシ類	アフィバル (アブラバチ)
	コナジラミ類	エンストリップ (ツヤコバチ)
	アザミウマ類	CAS-006 (カブリダニ), スリパンス (カブリダニ), ボタニガード液剤 (糸状菌)
	ハダニ類	トモノカブリダニ PP (カブリダニ)
トマト	コナジラミ類	トモノツヤコバチ EF 30 (ツヤコバチ)
ピーマン	アブラムシ類	アフィバル (アブラバチ), トモノアブラバチ AC (アブラバチ)
	アザミウマ類	TMN-982 (ハナカメムシ)
キュウリ	コナジラミ類	ボタニガード液剤 (糸状菌)
	アザミウマ類	TMN-982 (ハナカメムシ)
キャベツ	コナガ	ボタニガード液剤 (糸状菌)
イチゴ	アブラムシ類	アフィデント (ショクガタマバエ)
	ハダニ類	CAS-005 (カブリダニ)
キク	アザミウマ類	マイコタール水和剤 (糸状菌)
茶	チャノコカクモンハマキ	BCGV-01 (ウイルス)
シバ	コガネムシ類	KC-M1 (糸状菌)
	シバオサゾウムシ	バイオトピア (寄生性線虫)

平成 12 年度の生物農薬連絡試験ではほぼ前年並みの 34 薬剤が依頼され、のべ 114 件の試験が受託された。昨年は生物農薬の試験件数が非常に増加したが、本年は一昨年レベルに戻っていた。

本年初めて実用性ありの判定を受けた種は BCGV-01 (顆粒病ウイルス), KC-M1 (*Metarhizium anisopliae*), バイオトピア (*Steinernema glaseri*) の 3 つであった。